

行政視察等報告書（個人用）

令和 7年 9月 1日

知立市議会議長 様

報告者	民友クラブ 杉浦 弘一
日時	令和 7年 8月 27日(水) 13:00～ 8月 28日(木)11:00
視察(研修)場所	北海道 札幌市 札幌文化芸術劇場 h i t a r u
目的 (テーマ)	全国市議会議長会研究フォーラム 「地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて」
【 概 要 】 1. 基調講演 「主権を預かる誇りと責任」 元衆議院議長 伊吹 文明 氏 2. パネルディスカッション 「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」 ◆コーディネーター 近畿大学法学部教授 辻 陽 氏 (1) 地方議員のなり手不足問題 ・ 地方議会・議員に対する無関心、もしくは不信が広がる現況 ・ 地方議員選挙における投票率の低下 ・ ここ数回の統一地方選挙では、無投票当選者や定員割れが顕著に増加 (2) なり手不足問題に関する3つの論点 ・ 議員の多様性や住民代表性の確保：若者や女性、会社員などが立候補しやすい環境の整備 ・ 議員定数・議員報酬のあり方 ・ 令和5年地方自治法改正（地方議会の役割及び議員の職務等の明確化） ◆パネリスト 「地方制度改革下の地方議会」 東京大学先端科学技術研究センター 牧原 出 氏 (1) 検討から見えてきたこと ・ 小規模市町村で専門人材の雇用などに苦慮 ・ 状況は自治体によって異なる ・ 人口減の程度と進行具合の多様さは地域ごとに把握するしかない ・ 人口減対応事務が新たに生じている (2) 地方議会における具体的な方策 【短期】 当面必要な措置への勧告・提言 ・ 専門人材供給の補完、システムの標準化 【中期】 人口減の進行管理を地域単位で行う枠組みづくり	

- ・専門人材供給の補完、システムの標準化
- 【長期】地方制度の抜本的な見直しに踏む込む
- ・三議長会での活動が重要
- 【短～長期】地方自治による問題解決が必須
- ・国・地方の議員による丁寧な状況の聞き取りが重要

(3) 人口減の中で

- ・地域の「尊厳」による安心感と若年世代の満足度のバランス
- ・デジタル化は長期的には自治体のあり方を根本から変える
- ・議会における不変の熟した議論の場の活性化

「第20回（2023年）統一地方選を振り返る」

読売新聞東京本社政治部次長 白石 洋一 氏

(1) 解決に向けて考えたこと その1

- ・地方に政党政治はそぐわない
- ・クオータ制、立候補休暇、夜間議会、オンライン導入etc
- ・「ふるさと議員」制度（仮称）導入の可能性は？

(2) 解決に向けて考えたこと その2

- ・やはり「お金」の問題にどう対応するか？
- ・今年(2005年)は普通選挙法成立から100年。「ガラパゴス化」した日本の選挙制度。なり手不足をテコに大胆な見直しの必要性

「地方議員のなり手不足問題を考える」

全国市議会議長会 副会長 宇部市議会議長 山下 節子 氏

(1) 市議会が進めるべきこと

- ・議会の役割、議員の仕事への関心を高める
⇒やりがいを知ってもらう
- ・現代世代、多様な人材が立候補しやすい環境づくり

(2) 資質と志の高い議員のなり手不足対策

- ・議員の処遇改善（報酬・年金）
- ・議員の仕事・魅力の発信
⇒議員活動の発信：資質の向上、活動の活性化
⇒議員による主権者教育の推進

「なり手不足問題対策としての主権者教育」

札幌市議会議長 長内 直也 氏

(1) 主権者教育の取り組み

- ・ホームページで議場を見学した小中学生を紹介
- ・教育委員会を通じて夏休みの自由研究に議場見学を
- ・札幌市議会の1年間の流れが分かるチラシの作成

(2) 地域や区役所と連携した取り組み

- ・区役所と連携したイベントの開催
- ・夏休み期間中、小学4～6年生がまちづくり体験として、議場とTV局を見学会の開催
- ・地域や区役所と連携して、議会の役割を伝える機会を増やす

3. 課題討議

「地方議員のなり手不足問題の取組報告」

◆コーディネーター 関東学院大学法学部地域創生学科教授 牧瀬 稔 氏

(1) パネルディスカッションの内容

- ・2023年（令和5年）の統一地方選挙では、投票率の低下や無投票当選者の割合が高まるなど、小規模市議会における議員のなり手不足が深刻化した。
- ・若者や女性、会社員など、多様な人材の地方議会への参画を促し、議会を活性化することは、多くの市議会に共通の緊要な課題である。
- ・今後は、議会に対する関心を高め、多様な人材の地方議会への参画促進に地方議会がより積極的に取り組む必要がある。
- ・今回は地方議会の課題と解決策について議論を進める。

(2) パネルディスカッションの論点

- ・地方議会議員のなり手不足問題への具体的な取組内容
- ・地方議会議員のなり手不足問題への取組の成果と課題
- ・地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けた地方議会への提言

◆事例報告

「議員のなり手不足と向き合う岡谷市議会の挑戦」

長野県 岡谷市議会 前議長 今井 康善 氏

(1) 議会情報のオープン化（情報共有）

- ・SNSを活用した広報活動の強化
- ・情報の発信（プレス発表の強化）
- ・広聴機能の充実
- ・市民と議会とのアクセス手段などの充実

(2) 住民の議会への参加（住民参画）

- ・市民参加型の意見交換会や議会報告会の充実
- ・小中学生等に対する啓発活動の実施

(3) 議会機能の強化（機能強化）

- ・議会運営等の専門家によるアドバイスによる機能強化
- ・サイボウズ（グループウェア）による通知等のペーパーレス化
- ・タブレット導入（令和7年度）に向けた体制整備

(4) 議員のなり手不足対策

- ・議員のなり手不足の解消、議員定数、議員報酬などについて
- ・選挙公営費について

「MGK（みんなでギカイを考えるキカイ）」

石川県 白山市議会議長 中野 進 氏

(1) 未来へつなぐ議員の在り方検証委員会の設置

- ・議員の立候補環境に関すること
- ・女性をはじめとする多様な層の議会参画に関すること
- ・議員報酬・政務活動費に関すること

(2) 議員討論会の開催

①テーマ

- ・議員に若者や女性が少ない弊害
- ・選挙に出れない理由
- ・市民から見た議員像

②内容

- ・議長を除く20人が5人×4班に分かれる
- ・各班、リーダーの采配によるグループ討論

(3) 市民との意見交換会の開催

- ・これまで議会報告会や意見交換会に殆ど参加することのなかった若い世代や女性の方々に政治や議会について、どのように思っているか？聞いてみたい。政治家や議会議員ってどんな風に見えるのか？聞いてみたい。

①議員のなり手の確保について

- ・理由としては、リスク大、責任重大、議員の情報不足、家族の反対
- ・改善策としては、魅力の発信、報酬アップ、議員との交流

②投票息の向上について

- ・投票意識がない理由は、選挙や議会に関心がない、議員のことを知らない
- ・投票意識を持たせる改善策は、情報発信・主権者教育・施策の充実

③議員の兼業・請負の禁止について

- ・規制に対して緩和していくべき
- ・議員は様々な情報に触れやすいので自粛すべき

④適正な議員報酬について

- ・報酬を上げるべき（社会保障が薄く生活に見合うだけの収入が必要）
- ・定数削減、議員の仕事の見える化が条件で、報酬を上げる
- ・現状のままでよい（議員の仕事が見えない）

(4) 市民の多様な意見を市政に反映するための広報公聴委員会の充実

- ・市民から意見の聴収や、議会や議員の活動を広く市民に伝えるため、広報公聴委員会の定数を増員（6人→9人）する委員会条例を改正。
「広報部会」と「広聴部会」を設け特に広聴部門の充実を図り、市民の理解を深めていくこととした。

(5) 議員立候補環境等の改善のための政治倫理条例の一部改正

- ・親族等の請負契約を制限する努力規定を廃止して、市民への疑義を

生じさせないよう努力規定を設ける改正を行い、次期任期からの適用とする。

- ・議会でハラスメント研修を実施し、政治倫理条例にハラスメントに関する規定を明記。

(6) 議長への答申を経て取り組むべきこと

- ・議会の見える化、SNSを含めた情報発信
- ・市民との対話、広聴活動の拡充
- ・魅力ある報酬の検討
- ・立候補の足枷となり得る制限の緩和

【 所感、知立市政への反映に向けた課題等 】

全国市議会議長会研究フォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、共通する政策課題等について情報交換を行うとともに、議員同士の一層の連携を深めることを目的として、毎年開催されています。今回は、札幌市において開催されました。

若者や女性、会社員など多様な人材の市議会への参画を促し、議会を活性化することは、多くの市議会に共通の重要な課題であります。

一方、令和5年の統一地方選挙では、無投票当選者の割合が高まるなど、特に小規模市議会における議員のなり手不足が深刻化しております。

前回の知立市議会議員選挙におきましても、3回目の無投票となりました。当市におきましても、議員のなり手不足が非常に懸念されるところであります。議員のなり手不足は、単に無投票（無投票当選者率の増化）というレベルにとどまらず、多様化の欠如（年齢構成、性別、職業等）、投票率の低下、といった地域民主主義の根幹を揺るがす大きな問題でもあります。

知立市議会におきましては、「議会改革特別委員会」にて、なり手不足の問題を取り上げ、「若者や女性が立候補しやすい環境づくり」や「議員の処遇や定数のあり方」について、取り組んでいるところであります。

議員のなり手不足の打開策を探るには、まずもってその要因を追及する必要があります。議会・議員に直接関わる要因と共に、その結果であり原因となっている日本の政治構造や社会の変化を読み解くことも重要であると考えます。議員のなり手不足は、議会・議員に直接関わる要因にもよりますが、日本の政治構造・社会の変化と密接に関連していることから、総合的な要因分析が必要であると考えます。

今回の事例では、議会の見える化、SNSを含めた情報発信、市民との対話・広聴活動の拡充、魅力ある議員報酬の検討、立候補の足かせとなり得る制限の緩和等の紹介がありました。

本市の実情を踏まえ、主体的・持続的な議会改革を進め、最高意思決定機関として、市民にとって魅力ある議会をつくる必要があると考えますと共に、多様な人材が立候補しやすい環境づくりに取り組んでいきたいと思っております。

以上